

天台の法灯が初めて沖縄へ

新寺建立し、布教を展開



沖縄県具志川市に
建立された地蔵院

これまで、天台宗寺院がなかった沖縄に、寺院を建立し布教に歩く僧侶がいる。金城眞永師(五十歳)。寺は沖縄県具志川市の地蔵院である。もともと金城家の田があった土地に新寺建立した。天台宗と包括関係を結び、所属教区を決定して法人格を取得すれば、初めて比叡山で修行した僧侶によって沖縄に天台の灯がともされる。

金城師は、カウンセラーとして東京都江戸川区の教育研究所教育相談室員を経て、比叡山明王院(中山玄晋住職)の法嗣となり比叡山で修行した。比叡山行院を履修したあと東京の深大寺(谷玄昭住職)で三年を過ごし、故郷である

The Tenda
Journal
天台ジャーナル

広報天台

2004年(平成16年)
5月1日土曜日(毎月1日発行)

1部50円(消費税込・送料別)
発行所/天台宗出版室
発行人/出版室長 工藤 秀和
〒520-0113 大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内
電話 077-579-0022(代)
Eメール/T-Press@tendai.or.jp

一隅を照らす運動推進会報

〈一隅推進会員〉
年度会費(2500円)中に会報
(天台ジャーナル)購読料を含む。

極微 ごくみ

電車の中で女子高生に見とれたことがある。携帯電話の姿ではない。携帯電話のメールを打つその速さである。まさに神業。自分に比して情けなくなつた。思えばケータイの急速な浸透、発達は目を見張るばかりである。次々と新機種が発売され、機能もアップし、オジサンにはついていけない。世界になりつつある。神業メール打ちを眺めつつ、ふと発売当初に問題視された電磁波の脳への影響について考えてみたりする。続々と新機能搭載もいろいろ、メーカーにはペーサーカーを使用している人々への対応を、一日も早くクリアして欲しい、そんなことも考える。

沖繩に帰り、五年間天台の布教に努めている。沖繩は、琉球王国であった徳川初期に島津侯に征服され、以来その宗教政策と伝統宗教により天台の教義は根付かなかつた。記録によれば、大正時代にひとり修験系の僧侶がいたことは判明しているが、比叡山で修行した僧ではなく、まもなく他宗に転派している。このため地蔵院は沖繩で初めての天台宗寺院であり、金城師は、初めての正統な天台宗僧侶となる。

開宗千二百年慶讃大法会で、総授戒を進めるにあたり天台の拠点の少ない地にも調査をしたところ、谷住職から西郊良光宗務総長に連絡があり、その存在が一躍クローズアップされたもの。

金城師は「沖繩の風習、文化を取り入れながら、天台の教えを弘めてゆきたい」と語っている。

天台ジャーナル
第三種郵便物認可

本紙天台ジャーナルは、四月二十日付で第三種郵便物に認可されました。これも読者の皆様の暖かい御支援の賜と篤く感謝申し上げます。

認可により、全国への送料が一律に一部六十円の割引料金が適用されます。この機会に、是非檀信徒の皆様にも配布を頂戴し、定期購読のお願いを申し上げます。

檀信徒の方への発送代行します

なお、毎月の発送が煩雑とお考えの御寺院様のために、天台宗出版室では発送業務の代行をいたします。詳しくは、同封別紙をご参照頂くか、または直接お問い合わせ下さい。

今後とも引き続き、ご愛読をお願い申し上げます。

素晴らしき 言葉たち

Wonderful Words

人は花を見ているとき、花から自分が見られているとは思わない。しかし、花はたしかに人を見ている。好悪の感情さえ抱いて人間を見ているのだ。

「仏教のキーワード」

紀野一義 著
講談社現代新書

植物にも、好きな人間と嫌いな人間があるそうだ。電流を流す装置を使って反応を見ることが、その植物がどんな「感情」を持っているのか判断できるといふ。

例えば、「この花は切つてしまおう」などと喋つたりすると、当の花は恐ろしさで、大きな動揺を示すらしい。

反対に「なんて綺麗なんだろう」と賞めたり、美しい旋律の音楽を聴かせたりすると喜びの反応を表すということが、科学で証明されたのだそうだ。

さすがに現代科学は素晴らしい。人間を相手にするようになり、慈しみ大切に育てると、作物の出来が全然違うことを、農業をする人はかねてから知っていた。また、古い大きな樹には魂が宿っていると考えると、人々は話しかけたり、祈つたりしてきたのである。

いわば、科学は、このよきな事実をただ証明したに過ぎないともいえるのだ。

一木一草の「心」をみるのは科学ではなく、人の心の中にある仏である。



花想風言

五月の比叡山は草花が鮮やかに映える時期だ。か細い行者道や、谷の斜面にはエイザンスミレやアマドコロに混ざって、ホウチャクソウが咲く。ユリ科の多年草だが、冬の叡山では親個体は枯れて地下茎の先端が生き残り、翌春地上に顔を出すのだ。草の名の由来は佛塔の軒に吊られ、風力でも鳴る宝鐸の形に似ることからつけられた。横浜の三溪園に京都・加茂郡から移築した旧燈明寺の三重塔があって、ハマの潮風に吹かれ淋しげに鳴る音を聞いたことがある。中学生のころ、叡山ケールの山上駅から三百メー

第2回 宝鐸草 福田徳衍 (文・写真)

ホウチャクソウ

トルほど登った西尊院堂に留守番をしたことがあった。近くに東塔南谷の歴代僧侶の墓地があって、老杉の麓にホウチャクソウが群生した。やがてジエーン台風でお堂は半壊、杉が倒れてケールブルは長期運休、しめしめとばかりボクは長期間不登校で兄弟子たちが残した本や雑誌を乱読して過ごした。中年で東京から叡山に招かれ、一山住職で生涯を終わった父がのこした歌がある。宝鐸草ことしも咲けどそのかみの親しきひとに会えぬわびしさ 實衍



『善を尽くして生きる』

州に大師の像を建てたいのだが、なかなか良い場所がない」という話を聞いた森住職は、夢で『宝満の里』と教えられた気がした。それで現地を訪ねたところ、大師の足跡が数々残されていることに不思議な縁を感じて「身震いするほど感動した」。そのことが縁となって、建てたばかりの福岡の家を処分して自分がこの地に移り、妙香庵を開くことになった。協力者も現れて昭和六十二年十一月に、大師の尊像は開眼を迎えるのである。



鬼手仏心

和顔愛語

天台宗務総長 西郊 良光

「和顔愛語」という。おだやかな顔、やさしい言葉、のことである。これは、常に他人を思いやる気持ちが必要ならば出てこない。今、日本の社会は、和顔愛語で暮らす人々が少なくなつた。

グローバルスタンダードという弱肉強食の論理を「世界基準」だとマスコミが喧伝してから和顔は影をひそめ、また、感情言葉が氾濫して、思いやりある言葉は、あまり聞かれなくなった。最も和顔愛語をもって、自

分の子どもに接するべき母親が、ひどい虐待や傷害を行う。和や愛に代って、孤独という立ちが引き起こす事件である。不安や不満が、人間の心をシャットアウトしている。その不安や不満の原因のひとつに、日々繰り返される情報洪水がある。ほとんどは欲望を煽るもので、人々の心に欲求不満を残すものだ。本来、情報やモノを自由に取捨選択できるのが成熟した社会ではないかと思うが、そんな

生やさしいものでない。よほど自分を強く持たなくては、

押し流されてしまうほど脅迫的なものだ。我々は、餓鬼の世に生きているのかも知れぬ。宗祖大師は「さとりを得たよろこびを、私は決して独占しない」と述べられている。常に心を静かに保ち、自分を忘れて他の幸せのために祈り、行動することが天台宗の基本だ。あなたの思いやりのあるやさしい言葉で、一日の疲れを忘れる人や、生きてゆく勇気を与えられる人が、き

つといる。

力見つけ! 縁信

宝満山の大師像

を求めて難波の津を唐に向け出帆した大師は、瀬戸内で暴風雨に合い、遣唐船は難破してしまひ筑紫に漂流。その後、一年間を太宰府などで過ごしなが、無事入唐を祈願したのである。

二十年程前に、久留米・観音寺の菊川春暁住職から「九



伝教大師像の前に立つ森住職

太宰府・妙香庵 森 妙香 さん

福岡県太宰府・宝満山の中腹に合掌する伝教大師の像がある。天台宗妙香庵(森妙香住職)が昭和六十二年に建立したものである。身の丈、五メートルに及ぶ堂々たる像である。伝教大師の視線は、太宰府の町を越え、背振山系を越え、玄界灘の向こう、遙か中国の地を望んでいる。この地は、大師が遣唐船を待った地である。千二百年前に、天台の教え

談話室

仏教の散歩道



ひろ さちや

作家。様々な問題の支那を視て、幅広さや8巻多様な小説『ゆるぎなき心』を著し、『新潮社』

ほとけの国を「仏国土」といいます。それは清浄なる土地だから「浄土」とも呼ばれます。大乗仏教にはさまざまな浄土も数多くあります。なかでも阿彌陀仏の極楽浄土が有名ですが、薬師仏の浄瑠璃世界もあるし、大日如来の密厳浄土もあります。そして、それらの仏国土に共通している特徴は、その世界では、

——すべての人が幸福になれる——
ということですが。大勢おいでになるほとけさまは、あらゆる人が幸福になれるようにと願って、それぞれの仏国土を建設されたのです。では、どうしたらすべての人が幸福になれるのでしょうか……？ ちよつと考えてみてください。

たとえば、すべての人を金持ちにすれば、すべての人が幸福になれるか。そうならば、あんなにみんなが不満だらけになります。わたしたち凡夫は、他人よりも豊かになりたいという欲望（それが煩惱です）がありますから、他人が金持ちである

ことが自分を不幸にさせるのです。ですから、すべての人を金持ちにすることは、逆にすべての人を不幸にすることに近づくかもしれません。また、病人をなくし、すべての人を健康にすればいいのでしょうか？ そんなことをすれば、医者や薬剤師が生活に困ります。お医者さん、薬屋さんが不幸になるから、すべての人が幸福になれるません。

それなら、医師や薬剤師を転職させるといい、と言われるかも知れませんが、でも、そんなことをすれば、病院も製薬会社もなくなり、自分の職業を無理矢理変えられて、他の職業に就かされて、その人は幸福ですか。だから病人をなくせばいいんだという発想そのものが、おかしいのです。

世の中には、頭のいい子もいれば、勉強が苦手な子もいます。学業成績が悪いのは気の毒だといって、みんな同じぐらいの能力にすれば、みんなが幸福になれるか。美人と不美人の差のない、みんな同じ顔にすることが幸福ですか。男性と女性をなくし、みんなを中性にすれば、みんなが幸福になれるか。

それじゃあ、人間はみんな工場で作られた規格品のロボットですか。それじゃあ、人間はみんな工場で造られた規格品のロボット

なってしまう。あなたの亭主と隣の亭主がまったく同じ形状で、性能も同じ。そんな亭主がほしいのですか。すべての人を幸福にするにはどうすればよいか……なかなかむずかしいですね。ただ一つ言えることは、金持ちが金持ちのまま幸福に、貧乏人が貧乏のまま幸福になれるのが真の幸福です。健康な人は健康で幸福、病人は病人のまま幸福、それが本当の幸福なんです。それだけはまちがいないと思います。

（カット・伊藤 梓）



兵庫・照来中学校で40年間続く

静かに座ってリフレッシュ

自分の内面を極める

兵庫東美方郡温泉町の、町立照来中学校では、四十年にわたって、静座を続けている。静座とは、坐禅や止観のように厳しいものではないが、そのエッセンスを中学生でも出来るようにアレンジしたものである。

この静座は、週に一度水曜日の朝に行われるが、生徒からは「集中力がついた」「生活にメリハリが出来る」と好評だ。この「静座」は、兵庫教区正楽寺の熊谷亮澄住職が発案

したものである。昭和四十年に同中学教師として赴任した熊谷師は「スポーツは優秀なのに、落ち着きがない。これは自分をじっくりと見つめる時間がないからだ」と見定め、天台宗の止観にならって「静かに座って、自己の内面を見つめよう」と提案し、今日まで続けている。当時は数学の教諭をしながらの、静座の指導で苦労もしたがというが「慣れるまでは、無理をしない」という方針で行ってきた。「校長、教頭の

理解があつて」のことだが、熊谷師の退職後二十一年を経ても途切れることなく続けているのは、現代の青少年にも止観の素晴らしさが認識されているからといえる。警察も一応あるが、背中にあてて姿勢を正すのみの役割という。松元哲憲校長は「この地は、自然に恵まれているが、その中で落ち着いた生活が出来るようにとの思いで行っている」と語る。

四十年前に時かれた種子は「静座をしていると、普段の生活では聞かえなかった鳥の声が聞こえる」という女子中学生の感想を聞いて、着実に育っていると思えた。

Information

- 【大法会特別授戒会奉修予定】
- 5月23日(日) 山形教区 宝光院 柏山寺
- 5月29日(土) 南総教区 行元寺
- 6月10日(木) 信越教区 光前寺
- 【各地の行事】
- 5月30日(日) 京都・三千院御懺法講

比叡山宗教サミット17周年
8月4日に行われる、比叡山宗教サミット17周年の記念式典について、4月20日には、第一回の事務局会議が開催された。基本的には、例年のとおりだが、イラク情勢を考慮して、本年度の「平和を語る」人選については、イスラーム関係者を軸に調整が行われている。

お便りを下さい

あなたの周りでの出来事、ご感想をお送り下さい。また、取材について「こんな出来事、あんな人々」をお知らせ下さい。

封書、FAX、Eメールで、天台宗出版室まで。
連絡先は、題字横です。

FAXは、077-578-4814

総本山延暦寺御用達

墓地・墓石・供養塔・石佛・灯笼・無縁改葬

かわなみ

京の石匠 **河波忠兵衛**

七代目

京都店・京都市伏見区醍醐鍵尾町11-2 TEL 075-572-8888
大阪店・大阪府高槻市紅草町2-8 TEL 072-688-1489

A Story in the Tendai

聖でもなく、俗でもなく、ただひとつの道を

延暦寺・仲座 岩崎 惠哲 さん

仏と生きる

Vol.1.5

ずっと不思議に思っていた。比叡山延暦寺での大法要の時に、必ず黒子のように付き添う人々のことである。頭は刺っっているから、在家からみれば「僧」である。しかし、僧侶としての扱いはない。正式な役職名は「延暦寺仲座」。ある時には、天台座主と探題(次期座主)しか入室を許されない秘儀にも立ち会い、ある時には、下座でじっと控えている。千二百年の伝統を持つ仲座職は、聖でもなく俗でもない。しかし、かつては皇室から比叡山に直接に辞令が下賜されたのは、天台座主と仲座だけであったという。

かつて辞令は皇室から

仲座は比叡山独自の役職で、延暦寺で行われる法要儀式全般の準備と荘厳(飾り付け)に関する一切を取り仕切る。他宗や一般寺院では、僧侶自身が行うか、小僧と呼ばれる弟子の仕事である。

◎六年越しのプロポーズ◎

かつて比叡山では、僧正以上の僧侶は、雑事をしないという不文律があったからだという。しかし、この役が単に準備や飾り付けという受け身の存在でないことは、あとで述べたい。

昔の作法通りに

◎記録魔のメモ◎

岩崎は山口県出身である。大学へ入学したものの、当時は学生紛争で混沌とした時代だった。加えて卒業後の進路について両親と意見が合わず、留年して様子見をしていた時に、見かねた父親が比叡山の阿闍梨に預けたのが、この世界との出会いである。比叡山で居候しながら、長髪で大学に通う、偏狭な青年だった。

岩崎が師匠と仰ぐ今井は、また記録魔として知られた。今井の残した法要や行事の記録は、段ボールに何十箱にもなる。

◎間違いのない一人◎

どんな法要行事でも毎回々々、不備がないかと緊張の連続だ。それだけに、無事に終わった時の開放感といつたらない。

岩崎は、昔の作法通りに法要を終えることを使命と思っ

ている。そのことが、昔を今につなげ、未来につなぐことだと信じている。

もうひとつ、大事な役目は後継者を育てることだ。この職は、人数が多ければよいというものではない。それよりも、間違いない一人を育てることが大事である。

彼を育ててくれた今井玄崇は、平成十四年に八十七歳で亡くなっている。「覚悟はしていたが、もう、今井さんがおられないとは信じられない。もっと聞いておかねばならないことがあった。」



托鉢で延暦寺の僧侶らと

そのことを意識してかどうかわからないが、今井の口癖は「俺たちは、お堂のネズミだ」であった。お寺のお堂に、必ずネズミはいる。しかも、それは目立たず、あちこちに入りますという意味である。

「話としては面白いが、それは単なる風評でしょう。少なくとも僕は聞いたことはないなと岩崎は一笑に付した。が、これも、直接皇室から仲座の辞令が下された事実から発生した有名税ということろか。

一隅を照らす



延暦寺の本坊ともいわれる滋賀院での法要準備に当たる岩崎師。着用している仲座のシンボル「赤袈裟」は生涯の師と仰ぐ今井玄崇師より譲られたもの

第2期 續天台宗全書

全十巻 予約購入募集中! 天台宗特価

◎前半一括前払い 100,000円 (5巻代金・消費税・送料込)

◎各巻前払い 21,630円 (1冊代金・消費税・送料込)

ご購入には上のどちらかをお選び下さい。

入手困難な佛典の画期的翻刻印刷 天台宗典編纂所編 春秋社刊行

第1回配本 宗要光聚坊 上

天台宗典編纂所 FAX 077-579-6639

ぜひ寺院に1セットお備え下さい

◎お問い合わせ 天台宗典編纂所 電話 077-578-5190

第1期全15巻は完結終了しました。有り難うございました。

文・天台宗出版編集長 横山 和人



瀬戸内 寂聴師

天台宗開宗千二百年慶讃大法会を記念して、大蔵流狂言方で人間国宝の茂山千作氏社中による新作狂言が上演されることが決定した。

新作狂言の延暦寺奉納決まる

人間国宝 茂山千作氏が開宗千二百年記念に

新作台本は、瀬戸内寂聴氏が執筆する。この企画について、四月二十日には西郊良光



新作狂言を演ずることになった茂山千作氏

台本は瀬戸内寂聴師

一誠中国仏教協会会長と会談 傅画伯記念絵画展にも出席

天台宗代表団



一誠・中国仏教協会会長と歓談する半田孝淳探題大僧正

四月十五日、北京の中国美術館で、水墨画家・傅益瑤女士の来日二十五周年記念絵画展開幕式が行われ、半田孝淳探題大僧正と西郊良光宗務総長が出席した。

には、日中両国の協力を得て寺院の壁画、襖絵、祭りなど百五十点が展示された。さらに、半田大僧正、西郊総長一行は四月十六日に、中国国家宗教局ならびに中国仏教協会を表敬訪問した。同仏教協会では前会長・超僕初師の逝去以来、協会の首脳陣多数が交代しており、一誠新協会会長をはじめ同仏教協会代表と天台宗とは初の会見となり、両者は今後も変わらぬ友好関係の継続を確認しあつた。

祝新住職任命

- 【岡山・清水寺】前嶋弘承師【茨城・観音寺】醍醐孝昭師【東京・覺成院】高橋和幸師【延暦寺一山・実蔵坊】武田功正師【群馬・東昌寺】鈴木正徳師【群馬・正圓寺】鈴木正英師【群馬・覺常院】森祐哲師【近畿・溪谷寺】林圭澄師【三岐・慈明院】小池祖堂師【三岐・観音寺】梶生康文師【信越・瑠璃寺】瀧本慈宗師【信越・薬王院】原康護師【信越・東栄寺】原文護師【九州西・西巖殿寺】鷲岡嶺照師

【お詫び】先月号(第13号)中、延暦寺一山・大泉坊 鈴木大和師とありましたが、信越・光明寺 鈴木大和師に訂正し、お詫び致します。

天台トピックス

五月から六月にかけて、天台宗の各外郭団体では、以下の通り総会、研修会を予定している。

- ◎天台宗寺院婦人連合会 総会 5月13日～14日 京都
- ◎天台宗社会福祉事業推進協議会 研修会・総会 5月20日～21日 大分
- ◎天台宗教誨師会 研修会・総会 5月11日～12日 比叡山無動寺
- ◎天台仏教青年連盟 中央研修会 5月11日～12日 比叡山無動寺

台の信仰を深めていただきたい。そのことよって、総授戒運動を一層盛り上げてゆきたい」と語っている。

- 6月7日 日光山輪王寺 布教師連盟
- 近畿地区協研修会 5月12日 福井
- 中部地区教研修会 5月21日～22日 岐阜
- 東北・北海道地区協研修会 6月9日 福島
- 沖縄戦争犠牲者を追悼する慰霊行脚 5月10日 光永覚道阿闍梨講演
- 5月11日 那覇市・首里城から糸満市喜屋武岬・平和の塔までの27キロを行脚

訪中団が 国清寺 龍興寺 で日中合同法要

天台宗開宗と伝教大師入唐求法1200年



昨年度には天台宗開宗千二百年慶讃大法会が開闢し、また本年は伝教大師入唐求法千二百年の年を迎えた。そのことを記念した報恩訪中団が、五月十五日から二団に別れて中国を訪れ、大師ゆかりの天台山国清寺と龍興寺において、日中が合同で報恩法要を行

言により隋の煬帝が建立した寺院。平成八年の天台大師一千四百年大遠忌では、天台宗は報恩訪中団を組織し、同寺の大雄宝殿において日中の報恩法要が厳修されている。

また、龍興寺のある臨海市は、伝教大師が五カ月にわたって滞在され、勉学に励まれた地である。六年前まで、荒廃していたが臨海市の浄財によって復興されている。 今回の訪中団は、第一団が渡辺惠進座主親下を名誉総団長に五月十五日から十九日まで、また第二団が半田孝淳探題大僧正を名誉副総団長に五月二十九日から六月二日まで、それぞれ中国を訪問する。総団長は西郊良光宗務総長。 団員総数は約二百名で、報恩法要では、国清寺の可明住持、渡辺座主がそれぞれ挨拶を行う予定である。

掲示版

各地の推進大会

東京大会	日時： 5月29日(土) 13:00~ 会場： 九段会館大ホール 千代田区九段南 講師： ひろ さちや 氏
近畿大会	日時： 5月29日(土) 10:00~ 会場： 大同寺 和歌山市六十谷941 講師： 佐々木 光澄師(延暦寺副執行)
北総大会	日時： 6月4日(金) 10:00~ 会場： 南蔵院 旭市神宮寺2597 講師： 湯浅 法最師(圓勝寺住職)
兵庫大会	日時： 6月10日(木) 9:00~ 会場： 温泉町文化ホール「夢ホール」 三方郡温泉町湯990-8 講師： 田中 利典師(金峯山修験本宗宗務総長)

仏教NGOネットセミナーで 海外支援の重要性を再認識

四月十四日、第三回仏教NGOネットワーク(松永然道代表)研修セミナーが、東京・新宿区常圓寺を会場に開催された。

このネットワークは、仏教の社会的役割が厳しく問われている現代、仏教者自身の自覚を施すとともに、一般社会の問題や地球規模の課題により深く関わっていくことが求められており、こうした状況を踏まえ、仏教NGO間の相互理解と交流を促進しようと設立されたもの。

今回のセミナーでは、バン
グラデシユ・チッタゴン丘陵地帯の先住民で、その多くが仏教徒であるジユマの人々を支援している、ジユマ・ネットの報告が行われた。チッタゴン丘陵地帯では長年にわたる、土地を巡って政府やベンガル人と先住民ジユマの人々との間で紛争が絶えない状態が続いている。ジユマ・ネットは、現地の仏教関係者やNGOとともに、支援活動を行っている。

改組の諮問委開く

必要性、重要性を改めて考えさせられる研修会となった。

一隅を照らす運動総本部では、平成十七年度から新たな運動を展開するにあたり、諮問委員会を設置し、四月二十二日に第一回委員会を開催した。

同委員会では、委員長の新原玄應師をはじめ、九名の委員で構成されており、一隅を照らす運動の将来あるべき組織形態及び内容を検討し、本年九月中に組織改革案を打ち出す。

インドで私も考えた

②

一隅を照らす運動総本部長

壬生 照道

ライプルーに辿り着き、車で三時間半ほど走り、やっとドンガルガルへ到着した。そこから、プラジュニヤ・ギリ(ヒンディー語で智慧と言う意味)山の山頂を目指す。街を取り囲むように小高い岩山があり、古くからのキリスト

『熟睡する』



教、イスラム教の寺院が建ち並び、またヒンドゥー教の女神像が祀られている。そこに、一九九八年になつて、サンガ・ラトナ・法天・マナケ師によって釈迦牟尼仏が建立され、仏教も聖地を持つことができた。私たちは、

ここで行われる世界平和祈願大法要に、出席するためにやってきたのだ。現地ガイドのせいで、大法要には間に合わなかったが、歓迎式典にはなんとか間に合った。我々の到着を今か今かと待っていてくれたサンガ師に、あわせる

毎月4日は一隅を照らす日

一隅を照らす運動総本部では、毎月4日を「一隅を照らす日」と設定し、さまざまな活動に取り組んで頂くように呼びかけております。

- 一欲を捧げる募金・・・飲食や嗜好などを控えて募金を行う。
- 清掃奉仕活動・・・道路や公園で清掃活動を実施し、地域の美化に努める。
- リサイクル活動・・・家庭から出るアルミ缶やペットボトル・牛乳パックを集めてリサイクルに回す。
- 植樹植栽活動・・・木や花を育て、命の尊さや地球温暖化について考える。
- 資源節約・・・限りある資源を大切に、エネルギー消費について考える。
- 如法写経・・・写経をすることによって心の安定や自己の再確認をする。

*これらの取り組みは一例です。それぞれの家庭や支部など身近なところから出来る活動を行って下さい。

ほら、
あなたも
輝いている



いま、あなたのいる
その場所で
できることから
はじめましょう

キャラクター：桜井デザイン

一隅を照らす運動総本部通信

顔がない思いである。

そこには、どこからわいてくるのか、各地から何十万人もの仏教徒が、参拝に来ていた。いや、もうそれはわいてくるとしか形容のしようがない数である。

何時間も、いや何日も何日もかけて、歩いてやってくる。裸足の人もいる。彼らには、参拝できたことが幸せであり、喜びなのである。ひたすら、ひたすら時間をかけて祈る。この信仰心の深さには、ただただ敬服するばかりだ。信仰とは、本来そういうことで、そのことが功德であるということが、ひしひしと伝わってくる。日本の信仰とはあまりにもかけ離れていることを実感した。

翌日ナグプールからポパールまで夜行列車に乗った。日本の寝台特急のようにはいかない。パイプ椅子の背もたれを前に倒すとベッドが出てくる仕組みである。人で溢れかえっているから、脱いだ靴をそのままにしておく、誰のだか分からなくなる。壁に袋が付いていて、それに靴を入れておけということらしい。二段ベッドだが、上と下の距離は一メートルもないから、まともに起きあがることすらできない。シートが二枚と

一隅を照らす運動総本部

皆様の情報をお寄せ下さい

E-Mail : ichigu@tendai.or.jp



毛布が一枚支給される。この時期インドでの気温は、日中三十度なのに、夜は五度である。昼は扇風機で涼をとり、夜は切る。暖房はない。だから、寒い。列車のどこかに穴が空いて、すきま風がビュービュー入ってくる。音も凄まじい、揺れも激しい。しかし、私の特技は、どこでも眠れることである。翌朝、同行している草別君に足を揺さぶられて「降りる時間です」と言われるまで、ぐっすり眠っていた。彼は、一睡も出来なかつた、げんなりしていたけれど。(聞き手・倉田紀美子)